

塗布剤がりんごせん定痕のカルス形成に及ぼす影響

りんごのふらん病防除剤として使用されている塗布剤の中で、チオファネートメチルペースト剤（トップジンMペースト）、有機銅塗布剤（パッチレート）は、せん定痕のカルス形成率が高く、切り口の癒合効果が高い。

イミノクタジン酢酸塩（ベフラン塗布剤）、オイル入りチオファネートメチルペースト剤（トップジンMオイルペースト）、ポリオキシシン塗布剤（カケンゲル）は、カルス形成が悪く、樹皮障害の発生が懸念されるため、ふらん病の病斑削り取り部の処理に限定する。

表1 せん定切り口の状況

試験区名	供試薬剤名 (商品名)	'97.4.5		'97.6.5	'98.4.7
		調査 切口数	切口径 (mm)	加入形成 率(%)	樹皮 障害
T 塗布剤	チオファネートメチルペースト剤 (トップジンMペースト)	26	20.6	92.3	0.0
TO 塗布剤	〃 (トップジンMオイルペースト)	21	20.8	76.2	0.5
I 塗布剤	イミノクタジン酢酸塩 (ベフラン塗布剤)	25	20.5	52.0	0.3
O 塗布剤	有機銅塗布剤 (パッチレート)	24	20.8	95.8	0.0
P 塗布剤	ポリオキシシン塗布剤 (カケンゲル)	23	20.0	70.8	0.2
PA 塗布剤	ポリオキシシンエマルジョン (フランカトスプレー)	22	20.7	77.3	0.1
無処理		20	21.4	85.0	0.0

注) 処理日：1997年4月5日にせん定を実施、4月7日に切り口に塗布剤を処理

供試品種：きおう/M.9/マルバ、きおう/JM8、王林/M.9/マルバ、王林/JM8(4年生)

加入形成率：カルス形成が認められた切り口/全切り口×100

樹皮障害：0：障害なし 1：一部に軽い障害 2：外周半分程度の障害 3：ほぼ全周障害

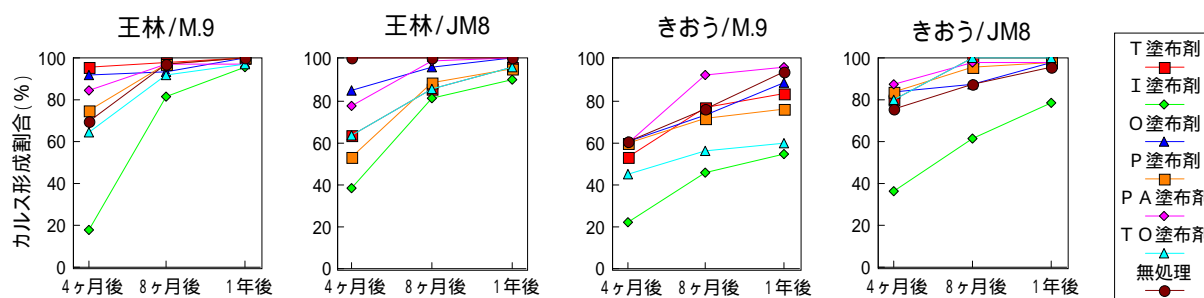


図1 時期別カルス形成割合(1997~1998)

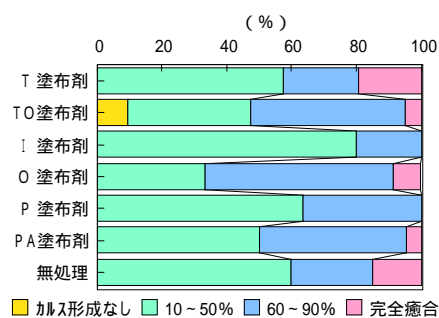


図2 処理1年後の切り口癒合状況

現在、防除基準に採用されている塗布剤6薬剤の中で、チオファネートメチルペースト剤、有機銅塗布剤は、せん定痕のカルス形成率や切り口の癒合効果が高く、せん定痕及び環状はく皮部などの外傷部の保護に使用できる。

イミノクタジン酢酸塩、オイル入りチオファネートメチルペースト剤、ポリオキシシン塗布剤は、せん定痕のカルス形成が悪く、切り口が枯れ込むといった樹皮障害が発生するおそれがあるため、せん定痕の保護目的には使用しない。